〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Aクラス】担当教員：金井　光生　・・・1

【Bクラス】担当教員：岸見　太一　・・・4

【Cクラス】担当教員：阪本　尚文　・・・7

【Dクラス】担当教員：大黒　太郎　・・・10

【Eクラス】担当教員：長谷川　珠子　・・14

【Fクラス】担当教員：板倉　有紀　・・・17

【Gクラス】担当教員：岩崎　由美子　・・20

【Hクラス】担当教員：金　　敬雄　・・・23

【Iクラス】担当教員：佐々木　康文　・・26

【Jクラス】担当教員：新藤　雄介　・・・29

〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Aクラス】

担当教員

金井　光生

講義情報

授業概要とねらい

【授業のテーマ】　大学で「学ぶ」こと、「対話する」こと

【授業のねらい】

「戦争・暴力の反対語は平和ではなく対話です」（暉峻淑子）という言葉を導きとして、新書版のテキスト読解を通じて、「大学でthoughtfulに学ぶ意味を自覚し、主体的な学びのためのスキルを修得する」ことをねらいとします。

基礎的な読解力の養成だけでなく、みんなで議論しながら自らthoughtfulに思索し自分の言葉で文章表現できることを目指します。

そのプロセスにおいて、物事の調べ方、レジュメ・レポートの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方、報告・議論の仕方、人格的コミュニケーションの仕方などを学び、今後の専門的な学習のための基礎力を養っていきましょう。

高校までの「勉強」と大学の「学問」との違いを頭と体で感じながら、大学生活の良いスタートを切ることができるようにしましょう。

難しいこともあるかもしれませんが、だからこそ、学芸も人生もおもしろいのです。

＊前期「スタートアップセミナー」および後期「問題探究セミナーⅠ」の学習成果として課されている年度末の「初年度レポート」を完成させることを最終目標とします。

単位認定基準

（1）テクストの内容の基本的な読解力を身につける。

（2）報告やプレゼンテーションの基本的なスキルを身につける。

（3）積極的に議論に参加つつ他者の意見に耳を傾け誠実に応答する態度を身につける。

（4）自ら主体的かつthoughtfulに思索し、自分の言葉で表現する能力を身につける。

授業計画

以下はあくまで予定であり、人間と同様に「生モノとしてのゼミ（セミナー）」は絶えず変化する可能性に開かれています。

時間的余裕があれば、映像鑑賞なども適宜取り入れる予定です。

授業計画（週形式）

第1回：ガイダンス
第2回：ディスカッション①：「大学で学ぶこと」について
第3回：アカデミック・スキルズの紹介
第4回：図書館ガイダンス（予定）
第5回：論文について①小熊『論文の書き方』はじめに・第1章「論文とは何か」・第2章「論文と科学」
第6回：論文について②小熊『論文の書き方』第3章「主題と対象」・第4章「はじめての調べ方」
第7回：論文について③小熊『論文の書き方』第5章「方法論」・第6章「先行研究と学問体系」
第8回：論文について④小熊『論文の書き方』第7章「方法」・第8章「研究計画書とプレゼンテーション」
第9回：論文について⑤小熊『論文の書き方』第9章「構成と文章」・第10章「注記と要約」
第10回：論文について⑥小熊『論文の書き方』
第11章「校正と仕上げ」・おわりに
第11回：報告と議論①暉峻『対話する社会へ』まえがき・第1章「思い出の中の対話」
第12回：報告と議論②暉峻『対話する社会へ』第2章「対話に飢えた人びと」・第3章「対話の思想」
第13回：報告と議論③暉峻『対話する社会へ』第4章「対話を喪ったとき」
第14回：報告と議論④暉峻『対話する社会へ』第5章「対話する社会へ」
第15回：ディスカッション②「大学で学ぶこと」と「人格的コミュニケーション」について

教材・教科書

小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』（講談社現代新書、2022年）＊生協の教科書販売で購入可
暉峻淑子『対話する社会へ』（岩波新書、2017年）＊生協の教科書販売で購入可
福島大学アカ本
佐藤望ほか編著『アカデミック・スキルズ（第3版）』（慶応義塾大学出版会、2020年）＊購入は任意ですが大学卒業まで有益です。
＊副読本として、戸山田和久『最新版 論文の教室』（NHKブックス、2022年）を強く推薦しておきます。

参考図書

苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社＋α文庫、2002年）
木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（星海社新書、2012年）
齋藤孝『読書力』（岩波新書、2002年）
田中共子編『よくわかる学びの技法（第3版）』（ミネルヴァ書房、2018年）
神谷美恵子『生きがいについて』[1966年]（みすず書房、2004年）
齋藤純一『公共性』（岩波書店、2000年）＆『自由』（岩波書店、2005年）
湯浅誠『反貧困』（岩波新書、2008年）
吉見俊哉『大学とは何か』（岩波新書、2011年）
U.エーコ（谷口勇訳）『論文作法』（而立書房、1991年）
J.S.ミル（竹内一誠訳）『大学教育について』[1867年]（岩波文庫、2011年）
※以上はすべて福島大学附属図書館所蔵。

参考URL

国立国会図書館「日本国憲法の誕生」サイト：http://www.ndl.go.jp/constitution/
金井光生「3・11以後の僕と憲法哲学：福島大学生のための法学入門」福島大学学術機関リポジトリ：http://hdl.handle.net/10270/4100

授業外の学修、及び必要な学修時間

（1）授業の予習・復習をする
（2）図書館で参考文献を調べ読む
（3）レポート等の課題をこなす
＊単位制に基づき、少なくとも60 時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

平常点（60%）
小レポートまたはリアクションペーパー（10%）
課題レポート（30%）

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

メールによる事前連絡により適時に対応します。

授業改善・工夫

ディスカッションをしやすいように改良した。

留意点・注意事項

全授業の２／３以上の出席を評価の必須条件とします。
受講生の数や指導講師のスケジュールによって、授業の内容や順番などの変更がある場合があります。

〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Bクラス】

担当教員

岸見　太一

講義情報

授業概要とねらい

【テーマ】科学技術と民主政治

この演習は、次の３つを同時に目指します。

　第一に、科学技術と民主政治に関わるのテキストの輪読とゲストスピーカーの話の＜傾聴＞を通じて、日常のなかにある政治に対する理解を深め、その解決策を考えます。

　第二に、３～５人でのグループワークを通じて、大学での学びに不可欠な、思考と発表のスキルを修得することを目指します。

　第三に、論争的な政治的争点について受講生が＜一緒に＞考えることを通じて、一人では到達することができなかった思考の深まりを各受講者が実感することを目指します。そのために、相手の人格を尊重しつつ、その人の意見を批判するための作法を学びます。

単位認定基準

・学術的な文章の書き方を修得する
・レジュメを用いたプレゼンテーションの仕方を修得する
・レポートに求められる形式を修得する
・論理的な議論の仕方を学習する
・他者と一緒に批判的に考えることの重要性を学習する

授業計画

＊現時点での計画です。最新版の計画は初回授業で示すほか、livecampusからシラバスを参照してください。

授業計画（週形式）

1　オリエンテーション
2　スキルを学ぶ(1)学術書をなぜ読むか、どう読むか
3　スキルを学ぶ(2)話の聴き方と文章の書き方
4　スキルを学ぶ(3)図書館の利用と情報検索の仕方　＊前後する可能性あり
5　スキルを学ぶ(4)批判的な思考の仕方とレジュメの切り方
6　テキストを読む(1) 指定テキスト①の前半　【＊三月までにテキスト確定】
7　テキストを読む(2)　指定テキスト②の後半　【＊三月までにテキスト確定】
8　話を傾聴する：ゲストスピーカー　【＊調整中】
9　話を文章にする(1)
10　テキストを読む(3)指定テキスト②　【＊三月までにテキスト確定】

11　テキストを読む(4)指定テキスト②　【＊三月までにテキスト確定】
12　テキストを読む(5)指定テキスト②　【＊三月までにテキスト確定】
13　話を傾聴する(2)ゲストスピーカー
14　スキルを学ぶ(5)レポートの書き方
15　レポート草稿への相互評価ション」について

教材・教科書

戸田山和久『思考の教室：じょうずに考えるレッスン』NHK出版、2020年
＊論理的な思考のスキルをわかりやすく説明するだけではなく、大学で思考の仕方を学ぶのはなぜなのかという根本的な問いにまで答えた本。購入をお願いします。

参考図書

【アカデミックスキルに関わる本】
宮内泰介・上田昌文『実践　自分で調べる技術』岩波新書、2020年（図書館所蔵）
阿部圭一・冨永敦子『「伝わる日本新版語」練習帳』近代科学社、2016年（図書館所蔵）
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年（図書館所蔵）
刈谷剛彦『知的複眼思考法：誰でも持っている想像力のスイッチ』講談社α文庫、2002年（図書館所蔵）

その他の本は授業内で提示します。

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

・思考と発表のスキル修得のため、毎回課題があります。履修者は各自の計画をあらかじめ調整してください。
・スキルを学ぶ回は、次回のグループワークの準備のための小課題を提出します。
・テキストを読む回は、毎回読書メモを作成し写真をオンライン提出します。レジュメ報告者はさらに、週の前半の課外時間に図書館で重要語句を図書館で調べ、授業までにレジュメを作成します。
・ゲストスピーカー回後には、登壇者の話の骨子をグループごとに作成します。
・第15回では事前課題としてレポート草稿を作成。第15回をふまえて書き直した原稿を、期末レポートとして提出します。
＊ 単位制に基づき、少なくとも 60 時間の授業外学修時間が必要です。

成績評価の方法

授業ごとの小課題（40%）、グループワークへの参加・貢献（20%）、期末レポート（40%）

成績評価の基準

S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90～100 点)
A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80～89 点)
B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70～79 点)
C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60～69 点)
F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(～59 点)

オフィスアワー

実施します。曜日・時間は授業開始時に連絡します。
＊この時間はアポ無しで対応します。この時間が無理な場合や対面を希望する場合は、岸見までメール(kishimi@ads.fukushima-u.ac.jp)を送ってください。

授業改善・工夫

大人数での輪読では一人一人の発言時間や発表回数は限られてしまいます。この授業では3～5人の小グループでの活動を中心にすることで、受講生のみなさんがアカデミックスキルを練習する機会をできるだけ多く持てるように配慮しています。

留意点・注意事項

・ゲストスピーカー回は通常の授業と実施場所、時間、曜日が変更になるので気をつけてください。実施場所は如春荘（県立美術館・博物館近くの大学施設）など大学以外の場所になることがあります。木曜に開催される場際は、移動時間を考慮して時間は14:00-15:30に変更になります。土曜日に開催される場合の時間帯は個別に連絡します。土曜日の回には欠席者も受講できるように録画などの配慮をします。
・本授業の課題はすべて、パソコンからオンラインで提出してもらいます（操作方法は授業内で説明します）。
・課題が毎週あります。そのため、履修希望者は課題に取り組む時間を持てるように各自の予定を調整する必要があります。
・教員およびグループの他の受講生に無断での欠席は厳禁です。３回以上繰り返した場合には成績評価の対象外となります。事情があって欠席する可能性がある場合には、事前に教員およびグループの他の受講生に相談してください。

〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Cクラス】

担当教員

阪本　尚文

講義情報

授業概要とねらい

テーマ：大学とは何か？ みなさんが入試を勝ち抜いて入学し、（少なくとも）4年間生活の多くを過ごす大学とは、いったい何なのでしょうか？ 何のために生まれ、どのように変わり、どうして今のような姿になったのでしょうか？ 今日、どのような課題を抱えているのでしょうか？このゼミでは、近年出版された大学論や「学問の自由」研究を講読することを通じて、私たちが日々の生活を過ごす大学とそこで行われる教育・研究が、なぜこのようなかたちをしているのかを考えます。

単位認定基準

①テクストを正確かつ批判的に読解し、論点を分析できる ②大学をめぐる諸問題について、自らの論点を発見できる ③発見した論点を他者に説得的に説明できる

授業計画

授業計画（週形式）

第1回　ガイダンス 第2回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第一章　移入と模索の時代 第3回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第二章　設計と整備の時代 第4回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第三章　高等教育の展開と大学論・自治論の時代 第5回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第四章　改革と公・私立大学出現の時代 第6回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第五章　高等教育拡張と不況の時代 第7回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第六章　戦時下と崩壊の時代 第8回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第七章　改革構想と設計の時代 第9回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第八章　改革構想結実の時代 第10回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第九章　四年制大学・短期大学・大学院出発の時代

第11回　共通文献講読　寺崎昌男『日本近代大学史』（東京大学出版会、2020年）第十章　新制大学の拡大と紛争の時代
第12回　共通文献購読　羽田貴史ほか『危機の中の学問の自由』（岩波書店、2022年）1　社会に対する責任としての学問の自由
第13回　共通文献講読　羽田貴史ほか『危機の中の学問の自由』（岩波書店、2022年）2　戦前日本の国家統制と学問――文部省思想局の憲法学説調査
第14回　共通文献講読　羽田貴史ほか『危機の中の学問の自由』（岩波書店、2022年）3　アメリカにおける産学連携と学問の自由の緊張関係
第15回　共通文献講読　羽田貴史ほか『危機の中の学問の自由』（岩波書店、2022年）4　学問の自由の国際的保障、終章　学問の自由の議論を新たな段階へ

※この授業計画は原則的なものであり、受講生の研究内容によって変更することがあります。

教材・教科書

上記、授業計画記載のもの。

参考図書

天野郁夫『大学の誕生』上・下（中央公論新社）2009年；同『高等教育の時代』上・下（中央公論新社、2013年）；同『新制大学の誕生』上・下（名古屋大学出版会、2016年）； 同『帝国大学』（中央公論新社、2017年）；同『新制大学の時代』（名古屋大学出版会、2019年）；潮木守一『フンボルト理念の終焉？』（東信堂、2008年）；高柳信一『学問の自由』（岩波書店、1983年）；竹内洋『大学という病』（中央公論新社、2007年）；田中耕太郎ほか『大学の自治』（朝日新聞社、1963年）；中山茂『帝国大学の誕生』（中央公論社、1978年）；吉見俊哉『大学とは何か』（岩波書店、2011年）。

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

報告者以外も当該テクストを読み、報告者に「ツッコミ」を入れる準備を事前にしてくることが求められます。 なお、単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とします。

成績評価の方法

8割以上の出席が前提となります（1日のゼミで一度も発言しない場合は、欠席とみなすことがあります）。その上で、以下の4点を総合的に評価します。
a.討議への参加・貢献状況
b.レジュメの形式・内容
c.プレゼンテーションの形式・内容
d.調査内容のオリジナリティ

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

オフィスアワーをご希望の方は、授業後に申し出てください。原則としてお互いの都合を調整して対応します。

授業改善・工夫

授業へのご意見、ご要望は常に受け付けています。それが成績に影響することはありません。一緒に用意授業を作っていきましょう。

留意点・注意事項

○2024スタートアップセミナーシラバス

【Dクラス】

担当教員

大黒　太郎

講義情報

授業概要とねらい

授業のテーマ：
「おらほの村」の自分史―飯舘村の広報誌を読み解く

　担当教員である大黒の専門は「政治過程論」です。そしてこれまで、政治過程論という分野のなかでも、ドイツやオーストリアの政党政治とその変化（たとえば、極右政党の登場や政権交代など）を研究してきました。福島や「地域」と関わることの少ない、そんな分野です。
　しかし、2011年3月の東日本大震災とその後の経験は、福島にある国立大学の一教員として、また福島の一住民として、地域と関わりなく生活することも、教育・研究に携わることもできなくなるという衝撃的なものでした。
　震災から12年、自分なりに「地域」、とくに被災地である福島県相馬郡飯舘村と関わるようになり、自分の研究・教育や日常生活を飯舘村とを結びつける方法を考えてきました。そして、自分なりに手探りしながら、地域での活動も行ってきました。そのことを通じて、「地域」とかかわることの難しさを実感したとともに、心を揺さぶられるような経験を数多くすることができた12年だったと感じます。

　本年度のスタートアップセミナー（＋問題探究セミナー）では、みなさんにも、自分の大学生活に「地域」を組み込んでいくことを試みてもらいます。
　そのひとつの方法として、2024年度は、福島県飯舘村の広報誌「広報いいたて」を読み解きます。
　1956年（昭和31年）の２つの村の合併によって飯舘村が誕生してから福島第一原発事故に夜被災から復興プロセスにある現代まで、その広報誌を縦横に読み解きながら、飯舘村の「自分史」をたどってみたいと思います。
　飯舘村の自分史をたどることは、同時に、みなさんの地元を新たな視点から見直すことにもつながります。
　飯舘村をケーススタディにしながら、参加者一人ひとりが、自分なりに地域をみつめ、地域に関わる方法を1作っていくことを目標とするセミナーです。

　本セミナーは、飯舘村の広報誌を読むことはゼミの最重要な柱ですが、それと同時に以下の３つのことにも取り組みます。

①幅広い文献講読
　地域づくりや、被災地の復興に関する文献は、学術的な分析から、地域づくりの先人の自分史を聞き取ったものまで、数多くのものがすでに蓄積されています。それらを数多く読み、仲間たちと議論を重ねます。

②自ら企画した地域における実践活動
　本を読んでいるだけでは、地域を見る目や地域と関わる方法は発見できません。そのためには、かならず地域での実践活動が必要になります。しかもその活動は、誰かほかの人が企画したイベントに参加するのでは不十分であり、自分たちで企画から始め、準備をし、責任をもって実施するというものでなければなりません。課題は大きく実践の成果はなかなか出てきませんが、諦めずに工夫しながら自ら実践活動を作っていく必要があります。飯舘村を舞台に、ゼミとして何らかの実践活動を企画・実践したいと思っています（現在のところ

ら、定期的なレストラン運営、あるいは、飯舘を舞台にしたネットラジオ局の開設などを考えています）。

③比較の視点を持つための国際的視野を養う
　「地域」と「国際」は離れたテーマだと思われることが多いのですが、実は、両者は離れがたく結びついています。自分たちの地域活動や、日本各地での地域づくりの実践をより客観的に捉え、批判的に検討するには、国際的な視座が不可欠です。地域づくりは各国共通の課題であり、他の国での試みや実践から学ぶことはたくさんあります。海外の地域づくりの事例も検討しましょう。

　新しい大学生活は、はじめての一人暮らしから、夜のアルバイト、ゼミという学びの形式、サークル活動や深い恋愛など新たな経験が多いかもしれません。新しく始まるそうした大学生活に、「地域に関わる」という要素を加えてみましょう！卒業時には、きっと、ゼミやサークル、アルバイトでの思い出に加えて、被災地域の復興に関わったことなどが、大学生活の思い出として深く残るはずです。

単位認定基準

〇ゼミで扱うテーマについて検討できる図書や資料を、図書館等で自ら探索することができる。
〇文献の的確な読解を前提に、ゼミ内でのプレゼンテーション等を通じて、議論のための論点と問題提起ができる。
〇ゼミ内討議を通じて、自らの考えを明確にすると同時に、それをレポートとしてまとめることができる。
〇意義ある地域活動を自ら企画し、仲間と協力しながら、実施することができる。
〇政策課題を「現場」の課題として捉えることができ、その課題解決に向けた個人の取組みに踏み出せる。

授業計画

①本演習では、「文献講読・討論」と「グループワーク」を適切に組み合わせて運営される。
②前期は、日常生活のなかからわれわれの「課題」を発見することに重点を置き、後期は「地域づくり」に焦点を合わせて授業が進む。
③1年次の演習として大学での「学びの手法」の修得を目指す。
④被災地にある大学として、（授業時間内・外で）被災地支援・地域復興プロジェクトの活動(主として福島県相馬郡飯舘村をフィールドとする）にも取り組む。

授業計画（週形式）

＜前期＞
第1回：ゼミの概要について共通理解を得るための自由討論
第2回：図書館を使って関連資料を探す
第3回：文献を通じて地域を知る…文献①の購読
第4回：文献を通じて地域を知る…文献①の購読とレジュメの作成
第5回：地域に関わる方法―大黒ゼミがこれまでやってきたことを知り、今年度の取り組みのアイデアを検討する
第6回：広報紙「広報いいたて」を読む①
第7回：街をあるいて引き出す「課題」―グループワーク①班別プレゼンA/B

第8回：街をあるいて引き出す「課題」―グループワーク②班別プレゼンC/D
第9回：広報紙「広報いいたて」を読む②
第10回：文献を通じて地域を知る…文献②の購読、レジュメ作成と討論
第11回：2024年ゼミ飯舘村プロジェクトの検討
第12回：広報紙「広報いいたて」を読む③
第13回：文献を通じて地域を知る―国際的視野で「地域」を見る…文献③の購読と討論
第14回：広報紙「広報いいたて」を読む④
第15回：半期のまとめ（後期に向けて）

＊なお、授業時間外で、飯舘村でのフィールドワーク等が予定されている。授業時間外の活動への積極的な参加がもとめられる。
＊各回の授業内容はおおよその目安である。参加者と相談の上、内容等は今後確定する。

教材・教科書

本セミナーは「広報いいたて」を読むが、資料『広報いいたて縮刷版』は担当教員が準備する。
文献講読には以下のもの（他）を利用する予定だが、具体的には授業時に指示する。
文献①松野光伸・千葉悦子『飯舘村は負けない―土と人の未来のために』（岩波新書、2012年）
文献②小松理虔『新復興論増補版』（ゲンロン、2021年）
文献③藻谷浩介/NHK広島放送局『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く』（角川新書、2013年）
なお、以上の文献は、福島大学附属図書館に所蔵がある。

参考図書

湯澤規子『「おふくろの味」幻想―誰が郷愁の味をつくったのか』（光文社、2023年）（現在のところ、附属図書館に未所蔵）
上記以外の参考図書については、授業内で適宜指示する。

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

対象となる文献については、プレゼンテーションを行うメンバーだけではなく、受講者全員が読んできていることを前提に授業が進む。必ず指定の文献を事前に読んでおくこと。
　本演習はグループワークが多くの比重を占め、授業時間内にとどまらず授業時間外でも文献の探索、文献購読、企画検討等多くの作業や活動をグループで一緒に行うことが必要となる。
　本演習は、グループワーク、被災地支援プロジェクトの企画や調整・実施など、ゼミ時間以外の活動の比重が大きく受講者にとっては負担の大きいゼミになる。「バイト」等を理由にしたゼミの欠席や、活動からの「足抜け」は難しい。あとから、「こんなはずではなかった」、ということにならないように、熟考したうえで受講を決めること。
　なお、単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

出席は成績評価の基礎なので、無断欠席（バイト等の理由による欠席も含む）は一切認めない。
出席条件を満たした受講生に対し、評価は、プレゼンの内容や方法（50点）と問題提起や議論の充実度（50点）で行なう。

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

オフィスアワーは特に設定しないが、必要な場合はいつでも時間をとるので、事前に電話もしくはメールにて連絡のこと。
（電話）024-548-8026 （メール）a027@ipc.fukushima-u.ac.jp

授業改善・工夫

定期的に、班ごとの意見交換会を実施する。

留意点・注意事項

1回の無断欠席は履修放棄とみなし、単位は一切認めない。

〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Eクラス】

担当教員

長谷川　珠子

講義情報

授業概要とねらい

日本や世界には様々な社会問題がありますが、私たちはそれを正しく把握・理解しているでしょうか。なんとなく言葉は聞いたことがあるけれど、それがどのような内容であり、どのような影響を社会や私たちに及ぼすのか、深く考えないことがほとんどのような気がします。自分には関係ないと思っている問題も少なくないかもしれません。でも、みんながそういう考えだと、問題は解決しませんし、社会を変えていくこともできません。このスタートアップセミナーでは、まず、社会にどういった問題があるのか、知ることから始めましょう。知るためには、調べることが必要となります。それをまとめてゼミで報告することも必要となってきます。報告した内容をみんなでディスカッションすることも大事です。これらの作業は、大学で学んでいくうえで非常に重要な技術・能力となります。ゼミを通して、社会問題を把握するとともに、研究に必要な技術や能力を身につける、これがこのゼミのねらいです。

単位認定基準

①社会問題について調査する（問題の発見、文献の収集・理解）
②調査した内容をまとめる（問題状況の整理・分析、レジュメの作成等）
③ゼミで報告を行う（プレゼンテーション力）
④ゼミで積極的に発言する（ディスカッションに加わる）
⑤他の人の意見を聴いたうえで、社会問題について理解を深める

授業計画

ゼミ生が18人の場合、3人×6チームを作って、各チームにそれぞれの社会問題（A～F）を調べて報告してもらいます。何が社会問題であるかを発見すること自体が重要であるため、社会問題A～Fについては、ゼミの第2回、第3回の時にゼミ生同士で話し合って決めてもらいます。
6つの社会問題は、バラバラのものではなく、相互に密接に関わり合うような問題を設定したいと思っています。
スタートアップセミナーでは問題の正確な把握に焦点を当て、その解決策等についての検討は後期のゼミでやってもらう予定です。

授業計画（週形式）

(1)ガイダンス・自己紹介等
(2)社会問題の発見①（大きな社会問題に注目する）
(3)社会問題の発見②（大きな社会問題の中の個々の課題に注目する）
(4)社会問題の整理　報告グループの決定
(5)社会問題Aの報告・議論
(6)社会問題Bの報告・議論
(7)社会問題Cの報告・議論
(8)社会問題Dの報告・議論
(9)社会問題Eの報告・議論
(10)社会問題Fの報告・議論
(11)これまでの議論の整理
(12)社会問題AとBについて再報告・議論
(13)社会問題CとDについての再報告・議論
(14)社会問題EとFについての再報告・議論
(15)まとめ

受講生の人数やみなさんの希望等により、演習の内容を若干変更することがあります。

教材・教科書

使用しません。

参考図書

「必要に応じて」下記の図書を各自で購入してください。
河合雅司『未来の年表　人口減少に本でこれから起きること』（講談社、2017年）
河合雅司『未来の年表２』（講談社現代新書、2018年）
小熊英二『私たちの国で起きていること』（朝日新書、2019年）
小熊英二『日本社会のしくみ』（講談社現代新書、2019年）
高橋洋一『未来年表　人口減少危機論の嘘』（扶桑社新書、2018年）　など

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

①授業外の学修：自分が担当となった課題を調査し報告内容をまとめる。自分が担当となっていない課題についても毎回予習する。
その他、常に広く社会問題に注目し、新聞を読んだりテレビ等のニュースを見たりする。
②必要な学修時間：単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とします。

成績評価の方法

3分の2以上の出席が前提となります。その上で、演習での報告（60%）、各回の発言（40%）により評価します。

成績評価の基準

S（90～100点）：単位認定基準のすべてを高い水準で満たしている。
A（80～89点）：単位認定基準をすべて満たしかつ3つ以上を高い水準で満たしている。
B（70～79点）：単位認定基準のすべてを満たしている。
C（60～69点）：単位認定基準の3つ以上を満たしている。
F（～59点）：単位認定基準が2つ以下しか満たされていない。

オフィスアワー

木曜日5時間目

授業改善・工夫

学生が発言しやすい環境を作ります。和気あいあいとした楽しいゼミにしましょう。

留意点・注意事項

○2024スタートアップセミナーシラバス

【Fクラス】

担当教員

板倉　有紀

講義情報

授業概要とねらい

目標（ゴール）：本を読み、内容をまとめることができる。他人とディスカッションができる。
テーマ：「つながり」「居場所」「孤立」を考える
　生きていく上では人との何らかの「つながり」を避けて生きることは難しいです。「つながり」は私たちを幸せにすることもありますが、逆に非常に傷つけてくることもあります。大学生活では、アルバイトやサークルやゼミやボランティアやインターンなど、これまで直接接したことがない人と接する機会も増えますし、高校生活のように「いつも一緒」のグループ単位での行動というよりは個人単位の行動が増えていくでしょう。つまりいろいろなタイプの他人といろいろな場面で付き合うようになるわけです。そこでこのゼミでは「つながり」「居場所」をテーマにした本を読んだり、「つながり」の怖さについてディスカッションしたり、安全安心な「つながり」とは何かを考えたりします。

単位認定基準

（1）ゼミに必ず毎回参加して、受講生間で学び合い、後期の問題探究Ｉのテーマを見つける
（2）自分の報告担当日にレジュメを作成し、所定のやり方で報告する
（3）読書感想文とレポートの違いを理解し、レポートを書くことができる

授業計画

授業計画（週形式）

（1）自己紹介、ガイダンス、メールの書き方、大学生活案内など
（2）レジュメの作り方
　※教科書「第１章　差別とはどんな行為か」を例としてレジュメの作り方と報告の仕方を解説する
（3）レポートとはなにか、アカデミックスキルズとはなにか、インターネットのサイトをレポートで「引用」したいときの注意点
（4）身近な「居場所」について調べてみよう（グループワーク、グループディスカッション）
（5）文献の購読　教科書「第２章　差別を考える二つの基本」「第３章　カテゴリー化という問題一他者理解の「歪み」を考える」
（6）課外活動
（7）文献の購読　教科書「第４章　人間に序列はつけられるのだろうか」「第５章　ジェンダーと多様な性」
（8）前期の期末レポートの解説、引用のルールの確認

（９）文献の購読　教科書「第６章　障害から日常を見直す」
（１０）文献の購読　教科書「第７章　異なる人種・民族という存在」教科書「第８章　外見がもつ“危うさ”」
（１１）前期の期末レポートのテーマを考える、文献の調べ方の解説
（１２）居場所や孤立に関する追加の文献の購読
（１３）「若者と孤立」に関する映像資料の視聴
（１４）前期の期末レポートのテーマの報告会
（１５）前期の期末レポートのテーマに関する質疑応答、全体のまとめ

教材・教科書

各自購入してください。
好井裕明・2020年：『他者を感じる社会学―差別から考える』ちくまプリマー新書（880円）

参考図書

必要に応じて、コピーを配布します

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

単位制に基づき、少なくとも60 時間の授業外学修時間を必要とする。
レジュメの担当の場合はレジュメを作成すること。
文献に事前に目を通し、質問や議論の準備をしておくこと。
毎回のゼミでの議論をメモし、どのような意見が出たか復習すること。

成績評価の方法

（1）レジュメ作成とレジュメの報告　４０点
（2）グループディスカッション　３０点
（3）期末のミニレポート課題　３０点

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100 点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89 点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79 点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69 点）
F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59 点）

オフィスアワー

ゼミがある日の木曜11時～12時50分

授業改善・工夫

レジュメの報告時間よりもディスカッション時間を長めに設定し、大学1年生同士の議論や交流の活発化をはかる。

留意点・注意事項

課外活動を予定しています。
ゼミなので、無断遅刻や無断欠席はしないようにしてください。

〇2024スタートアップセミナーシラバス

【Gクラス】

担当教員

岩崎　由美子

講義情報

授業概要とねらい

本演習では、学生が自ら問いを立て、仲間との議論を重ねて主体的に学ぶための支援を行い、基礎的なアカデミックスキルを修得することを目的とします。
演習を貫く全体的なテーマは下記のとおりです。このテーマに関連する文献の輪読およびレポート課題を設定します。

テーマ：「現場から学ぶ地域再生・まちづくり」

いまや農山村も地方都市も、少子高齢化が進み、地域社会の人間関係は希薄なものとなりました。地域経済や地域産業は活力を失い、伝統的な地域文化も衰退の一途をたどっています。中山間地域では、多くの山林や農地が荒れたままで放置され、また、地方中小都市の中心市街地は週末になっても店を閉じたままで、人気のない町並みが当たり前のものとなってしまいました。これまでさまざまな公共投資がなされ、地域活性化のための政策が展開されてきたにもかかわらず、地域の衰退になかなか歯止めがかからないのが現状です。

この演習では、このような地域の課題解決に向けて、実際に地域に暮らし、そこで生きていこうとする人々が、行政や他地域とのネットワークを構築しながら、地域づくりの主体を形成しようと模索する試みに焦点を当てていきます。例えば、地域文化、地域福祉、地域環境、コミュニティ形成など多様な分野の実践事例等から、地域住民の主体的なコミットメントと連携はどのような形で具現化されようとしているのか、その条件と課題はどのようなものなのか、といった観点から、地域問題の解決に向けた理論と視点、方法などを学びます。

具体的には、地域再生やまちづくりに関する文献の読解や地域行事への参加、フィールドワークを通じて、地域が抱える様々な課題の現状や既存の行政施策の問題点等を検討し、また、今後求められる新たな取り組みの方向性について現場での実践に学びながら考察していきたいと思います。フィールドワークでは、受講生も地域づくりの現場に参画し、住民や自治体職員等とともに生の課題に向き合い検討を重ね、地域再生のための計画づくり（構想）と実行に向けた内発的な展開に関わっていくことになります。

この授業の受講を通して、①文献や各種統計データを読み込んで、自分の意見・考えを構築し、②ゼミメンバーとともにテーマについて議論する力をつけ、さらに、③フィールドワークで求められるインタビュー調査等の技法を実践的に学び、④フィールドワークで得られた成果を的確にまとめ、発表する力を身につけてほしいと思います。

単位認定基準

・テーマに関する文献を読み、基礎的な知識を身につけることができる。
・テーマについて調べたことを他者に伝え、議論することができる。
・最低限の形式を守ったレジュメや発表資料を作成することができる。
・最低限の形式を守ったレポートが書けるようになる。

授業計画

農山村地域や地方都市が抱える諸問題と行政施策、地域住民が主体となった地域づくりの事例等について文献を輪読して理解を深めます。また、上記のテーマをより実証的に掘り下げるため、休日を利用した日帰りのフィールドワークや、夏休みなどを利用した調査合宿を実施する予定です。具体的な時期や場所については履修生と相談して決定します。

授業計画（週形式）

第１回：ガイダンス（授業の進め方）
第２回：ノート・レジュメの作り方
第３回：レポートの書き方①（問いの立て方）
第４回：レポートの書き方 ②（アウトラインの作成）
第５回：レポートの書き方 ③（ 引用の仕方、パラグラフ・ライティングの方法）
第６回：文献・資料・データ収集の方法
第７回：図書館ガイダンス
第８回：テーマに関するグループディスカッション①（話し合いの技法）
第９回：テーマに関するグループディスカッション②（プレゼンテーションの技法）
第10回：フィールドワークの事前学習①（過疎・中山間地域の現状）
第11回：フィールドワークの事前学習②（地域課題の発見）
第12回：フィールドワークの事前学習③（調査技法の学習）
第13回：フィールドワークの準備作業①（質問紙調査の作成）
第14回：フィールドワークの準備作業②（聞き取り調査票の作成）
第15回：まとめ

教材・教科書

初回の講義時に受講生と相談のうえ決定します。

参考図書

受講生の関心を聴きながら適宜紹介しますが、とりあえずは以下の文献を挙げておきます。
雑誌『季刊 地域』No.1～（農文協、2010～）
平賀緑『食べものから学ぶ現代社会』（岩波ジュニア新書、2024）
佐藤洋平／生源寺眞一『中山間地域ハンドブック』（農文協、2022）
田中輝美『関係人口の社会学―人口減少時代の地域再生』（大阪大学出版会、2021）
山下祐介『地域学をはじめよう』（岩波ジュニア新書、2020）
除本理史他『きみのまちに未来はあるか？―「根っこ」から地域をつくる』（岩波ジュニア新書、2020）
佐藤一子他編『〈食といのち〉をひらく女性たち』（農文協、2018）
『シリーズ田園回帰』NO.1～（農文協、2016～）
塩谷弘康・岩崎由美子『農と食でつなぐ 福島から』（岩波新書、2014）
小田切徳美『農山村は消滅しない』（岩波新書、2014）
結城登美雄『地元学からの出発―この土地を生きた人びとの声に耳を傾ける』（農文協、2009）
吉本哲郎『地元学をはじめよう』（岩波ジュニア新書、2008）

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

・各回のテーマの文献・資料等を収集し事前に内容を把握しておくこと。
・授業で配布された資料や授業中にとったノート・メモを参考にして、授業内容の予習・復習を行うこと。
・日帰りフィールドワークや夏休み中の調査合宿に参加し、レポートの執筆を行うこと。
・単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

１．授業やフィールドワークへの自発的かつ積極的な取り組み（３０%）
２．授業での報告・討論、レポート・報告書の作成(70%)

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

木曜日５限。電子メールで事前にアポイントメントを取ってください。

授業改善・工夫

学生同士の議論が活発に行われるよう、少人数によるグループワークを実施します。

留意点・注意事項

休日などを利用したフィールドワークを予定している（リモートを含む）ので、地域に積極的に出かける意欲をもつ学生の受講を希望します。フィールドワーク時の宿泊費・交通費など費用負担が生じる場合があります。

○2024スタートアップセミナーシラバス

【Hクラス】

担当教員

金　敬雄

講義情報

授業概要とねらい

テーマ： 中国文化理解

　ここ数年の間、新型コロナウイルスのパンデミックのため、世界中で人的交流、経済活動などが停滞してしまったことは周知の事実である。そして、日中間も例外ではない。そこで、新型コロナウイルスが発生した前の2019年頃に戻って、日中間の交流を振り返ってみたい。

　実は、我々があまり意識していない中で、日本社会は急激にグローバル化していたようだ。2019年1月時点で東京には約180の国と地域の人が住んでいたと言われている。東京では人手不足に悩む現場に外国人を派遣する企業も増えていた。そして、日本のグローバル化は決して東京に限った話ではなく、北は北海道、南は沖縄県とまさに全国津々浦々に外国人が増加していた。いまは製造業だけでなく、野菜作り、カキの養殖、カツオの一本釣りなども外国人の力で成り立っている状況である。日本政府は2019年4月から改正出入国管理法を施行し、外国人労働者の受入に門戸を開いている。今後より多くの外国人が日本に入ってくるものと思われる。法務省の発表によれば、令和元年６月末現在の在留外国人数は282万人である。そのうちに国籍・地域別では中国が一番多く、786,241人に上り、全体の27.8％を占めている。今後も中国人がさらに増加していくことが予想される。

　日中両国は一衣帯水の隣国であり、2000年に及ぶ文化交流の歴史がある。そして、いまや世界第２、第３位の経済大国で、経済面での相互依存もますます高まり、それは国民生活に直結している。また、日中両国の善隣友好関係は双方の国益に資するばかりではなく、ひいてはアジアおよび世界の平和にも貢献できるものである。日中善隣友好関係を発展させていく上で、真の相互理解を図ることは不可欠である。そのために、偏った情報に翻弄されず、多面的に考察することが非常に大切である。本演習では日中比較の視点から中国文化について、みんなで共に調べ議論し、中国社会・中国文化への理解を深めていきたい。

単位認定基準

出席状況、ゼミ討論への参加姿勢などを見るとともに、レポートとゼミ発表については、下記のような内容を確認する。

1、テーマと内容の整合性

2、資料の収集状況

3、資料についての分析状況

4、全体の構成

5、レポートの書式

授業計画

この授業は、概ね以下のように予定している。ただし、受講生の情況などさまざまな要因で予定を調整することも予想されるので、この計画は一つの目安として考えている。

授業計画（週形式）

第1回　ゼミガイダンス。ゼミメンバーの自己紹介
第2回　レポートとは何か（講義）
第3回　レポート作成の要領①「全体の構成」「テーマの設定」「資料収集」
第4回　レポート作成の要領②「レポートの書式」「引用と注釈」
第5回　文献講読と討論①「「階級闘争論」「三つの世界論」と日中友好」
第6回　文献講読と討論②「「将来から現在へ」と「過去から現在へ」の相違」
第7回　文献講読と討論③「「大から大へ」と「小から小へ」の相違」
第8回　文献講読と討論④「「鮮明さ好き」と「曖昧さ好み」の相違」
第9回　文献講読と討論⑤「親しくないからこその年賀状と親しいからこその年賀状」
第10回　文献講読と討論⑥「いざというときの友達と礼儀正しい友達」
第11回　文献講読と討論⑦「「中身至上」対「儀式至上」の相違」
第12回　文献講読と討論⑧「「喜びからの力」と「悲しみからの力」の相違」
第13回　文献講読と討論⑨「「タテ社会」と「ヨコ社会」の違い」
第14回　文献講読と討論⑩「死ねば仏と，死んでも悪人」
第15回　前期レポートの総括
第16回　全体のまとめ

教材・教科書

プリント配布を予定している。

参考図書

内山完造著『中国人の生活風景』東方選書 1979年 （図書館所蔵）
王雲海著『「権力社会」中国と「文化社会」日本』集英社 2006年（金研究室蔵書）
朔方南編訳『中国人の話』上・下　はまの出版 1997年 （図書館所蔵）
高橋哲哉著『靖国問題』 筑摩書房 2005年（図書館所蔵）
中嶋嶺雄著『日本人と中国人ここが大違い』ネスコ 1990年（金研究室蔵書）
孫崎亨著『日本の国境問題―尖閣・竹島・北方領土』 筑摩書房 2011年（図書館所蔵）
松本一男著『中国人と日本人』サイマル出版会 1987年（図書館所蔵）

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

・ ゼミのテーマに関わる文献・資料等を収集し、事前に内容を把握しておくこと。
・ 収集した文献・資料・データ等をまとめ、レジュメやパワーポイントを作成し発表できるようにしておくこと。
・ 他者の発表に関しても、質問や議論ができるよう、関連する文献・資料等に目を通しておくこと。
・この授業は単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

成績評価はゼミへの参加姿勢３割、レポートとゼミ発表７割で行う。

成績評価の基準

単位認定基準への到達度に基づいて評価する。具体的には下記の通りである。

S　すべての項目においてきわめて優れている（90～100点）

A　すべての項目において優れている（80～89）

B　望ましい水準に達している（70～79点）

C　望ましい水準には達していないが、不合格ではない(60～69)

F　半分以上の項目で望ましい水準に達していない（0～59）

オフィスアワー

火曜日15:00～17:00の時間帯に質問・相談に応じる。ただし、事前にメールまたは電話で連絡すること。

上記時間帯以外でも日程調整の上、適宜対応する。また、内容によっては、メールによる連絡も受け付ける。

授業改善・工夫

レポートの作成指導では、見本を提示しながら、作成要領を紹介する。

留意点・注意事項

○2024スタートアップセミナーシラバス

【Iクラス】

担当教員

佐々木　康文

講義情報

授業概要とねらい

テーマ「これからの地域をどのような場所にしていくか」
2014年に出版された増田寛也編『地方消滅』（中公新書）は、東京一極集中が人口急減を招き、このままでは896の自治体が消滅する可能性があると主張し、衝撃を与えました。もちろん、田園回帰の動きがあったり、コロナ禍が地方移住への関心を高めた面もあったと思われますが、長期的には、人口減や衰退の流れの中で、これからの地域をどのような場所にしていくかを考える必要があると思います。このゼミでは、あらためて『地方消滅』の主要な内容を検討した上で、宮﨑雅人『地域衰退』（岩波新書）を読むことで、地域の衰退の現状と背景を探り、この衰退の流れにどのように向かい合っていくかを考えます。加えて、小松理虔『新地方論』（光文社新書）を読むことによって、地域に存在する様々なテーマから、これからの地域をどのような場所にしていくかを考えます。

単位認定基準

(1)活用する文献や資料等を調査・検討し、そこにあげられている内容および用語を理解できる。
(2)テーマに関する内容を理解し、説明ができる。
(3)テーマに関する現状や諸課題に対して、自分なりの見識を持ち、意見を述べることができる。
(4)的確に整理して書かれたレポートやレジュメ等を提出したり、内容を効果的に発表できる。
(5)調査やグループワークを行ったり、他のゼミ生の意見を理解した上で、自分の考えを積極的に発言し、全体の考えをまとめることができる。
(6)自分やグループが設定したテーマについて考えて、内容を効果的に発表することができる。
(7)特段の配慮をしなければならない事情を除いて授業に出席する。

授業計画

授業計画（週形式）

①ガイダンス
②大学における学びについて考える（講義、演習、学際性、各自の関心）
③レポート・論文を書く（問いの立て方から結論の導き方まで）、レジュメを作る・報告する。
④大学における学生の民主的な議論と手続きについて考える
⑤図書館ガイダンス
⑥「極点社会の到来」（増田寛也編『地方消滅』）
⑦「東京一極集中に歯止めをかける」（増田寛也編『地方消滅』）
⑧「地域はどのくらい衰退したか」（宮﨑雅人『地域衰退』）
⑨「衰退のメカニズム」（宮﨑雅人『地域衰退』）

⑩「衰退の「臨界点」」（宮﨑雅人『地域衰退』）
⑪「「規模の経済」的政策対応の問題点」（宮﨑雅人『地域衰退』）
⑫「地域衰退をどう食い止めるか」（宮﨑雅人『地域衰退』）
⑬「地域衰退をどう見るか」（個人発表とグループ討論）
⑭「地域衰退をどう見るか」（グループ討論とグループ発表準備）
⑮「地域衰退をどう見るか（グループ発表）

教材・教科書

演習が始まってから指示する。

参考図書

増田寛也編『地方消滅』中央公論新社
宮﨑雅人『地域衰退』岩波書店
大江正章『地域に希望あり』岩波書店
小松理虔『新地方論』光文社
福島大学教育推進機構高等教育企画室『アカ本』
石黒圭『論文・レポートの基本」日本実業出版社
戸田山和久『新版　論文の教室』NHKブックス
小笠原喜康『最新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

（1）毎回の授業までに、テキストを読んで、読書ノート（内容要約、自分の意見や考え等）を書いてくる（グーグルクラスルームで提出）。
（2）地域社会に関して書かれた文献や資料を探して内容を検討する。
（3）グループや個人発表のために文献や資料を探して内容を検討する。
（4）毎回の授業に関する予習と復習を行う。
（5）テーマに関連した調査を行う。
（6）レジュメやレポートの作成、グループや個人による発表用のファイル作成を行う。
単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

単位認定基準を踏まえながら、出席およびゼミへの参加の積極性（40%）、発表（20%）、提出物（40%）などを総合して判断する。

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）
C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）
F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

希望があった場合にいつでも対応する。日時を調整するので、メールして欲しい。

授業改善・工夫

演習の状況を観察し、受講生からの意見を参考にしながら、改善していく予定である。

留意点・注意事項

ゼミのテーマに関して十分な興味を持っていない人、時間外の調査や学習およびグループワークを行うことができない人、積極的に議論に参加できない人はついて来るのが大変だと思われる。この演習に参加する場合には、中途半端ではなく、しっかりした気持ちをもって参加することを望む。なお文献の購入や調査を行う場合などに費用がかかることがある。

○2024スタートアップセミナーシラバス

【Jクラス】

担当教員

新藤　雄介

講義情報

授業概要とねらい

「原発事故における避難指示とその解除の諸相」

2011年3月に起こった原発事故によって、福島県内の様々な方々が生活を送っていた場所から避難を余儀なくされました。このゼミでは、放射線による汚染が比較的重篤ではなかった田村市都路地区を中心に、その避難指示の経緯と解除とその後について調査していきます。

また、このゼミは1年ゼミということもあり、原発事故の避難に関する論文などの読み方、レジュメの作り方やレポートの書き方などの大学での基本的な学び方も習得できるように設計しています。これに加え、新聞記事の収集や後期では都路への聞き取り調査も実施できればと考えています。

単位認定基準

1.学習グループの中で協働的に課題に取り組むことができる。
2.設定したテーマに関する文献を読み、要約することができる。
3.必要な形式を守ったレジュメやレポートを作成することができる。
4.設定したテーマについて他者に伝えることができる。

授業計画

授業計画（週形式）

第1回　イントロダクション＋自己紹介
第2回　資料の種類を知る
第3回　内容要約型レジュメの作り方
第4回　西﨑伸子「避難指示の外側で何が起こっていたのか」『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』
第5回　望月美希「「ふるさとを失う」ということ」『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』
第6回　原口弥生「「生活再建」の複雑性と埋もれる被害」『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』
第7回　関礼子「福島原発事故からの「復興」とは何か」『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか』
第8回　廣本由香「福島原発事故をめぐる自主避難の‹ゆらぎ」『社会学評論』67巻3号
第9回　新聞記事調査の発表①　ホップ
第10回　新聞記事調査の発表②　ステップ
第11回　新聞記事調査の発表③　ジャンプ
第12回　新聞記事調査の発表④　着地
第13回　レポートの書き方
第14回　レポートのための資料収集
第15回　夏休みと来期の調査の準備

教材・教科書

授業計画を参照してください。

参考図書

参考URL

授業外の学修、及び必要な学修時間

レジュメの準備のための読書や資料調査のための下調べなどを含んで、60時間以上授業内容の予習・復習を行ってください。

成績評価の方法

レジュメ作成（20%）・調査報告（20%）・レポート（60%）によって評価します。

成績評価の基準

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた。
A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた。
B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた。
C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた。
F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった。

オフィスアワー

ご遠慮なくお声がけ下さい。随時予定調整して、応じます。

授業改善・工夫

1年生で身につけるべきものを身につけられるように設計した。

留意点・注意事項